

第4回板橋区ボランティア活動推進協議会 要点記録

会議名	第4回板橋区ボランティア活動推進協議会
開催日時	令和5年1月31日(火)午後2時から午後4時まで
開催場所	板橋区役所 災害対策本部室
出席者	<p>[委員]17人(敬称略) 佐藤陽(会長)、鈴木織恵、長澤重隆、松村良子、田口晋、石川隆彦、関根正孝、沼和子、藤田保代、矢野由加、大塚トモ子、馬場充好、平野江里子、増田百合、河毛哲郎、前田康夫、林栄喜(欠席:2人)</p> <p>[オブザーバー] いたばし総合ボランティアセンター所長</p> <p>[事務局] 町田地域振興課長、地域振興課地域振興係職員</p>
会議の公開(傍聴)	公開
傍聴者数	2人
議題	1 開会 2 今後のスケジュールについて 3 前回(第3回協議会)の振り返り・第4回協議会概要 4 第2回専門部会の検討結果及び意見聴取 5 運営内容についての検討 6 第3回専門部会への下命 7 全体を通しての意見聴取 8 閉会
配付資料	資料4-1 ボランティア活動推進協議会の今後のスケジュールと議題(予定) 資料4-2 第4回ボランティア活動推進協議会 検討の進め方 資料4-3 第2回ボランティア活動推進協議会 専門部会検討結果 資料4-4 参考 板橋区策定ビジョン等(一部)より将来像・基本理念等の一覧 資料4-5 運営内容について 資料4-6 第3回板橋区ボランティア活動推進協議会 要点記録 資料4-7 第2回ボランティア活動推進協議会専門部会 要点記録
事務局	1 開会 皆様お集まりいただきまして、ありがとうございます、年が変わりまして本年もどうぞよろしく願いいたします。 定刻になりましたので、会議開催に先立ちまして、事務局から出席状況等の事務連絡をさせていただきます。 本日の会議でも、会議録を作成する関係から、議事の内容を録音させていただきますので、ご了承願います。 またご発言の際には、録音の関係上、マイクをお持ちになりご発言をお願いいたします。 本日は、お2人の委員がご都合により欠席でございます。 また平野委員はオンラインでの参加となっております。 ご欠席の連絡がなくまだ二名いらっしゃる方がおりますけれども、定刻になり

<p>会長</p>	<p>ましたので始めさせていただきます。 本日は委員19名のうち、15名の委員が参加されております。 また過半数を満たしておりますので、本協議会が正式に成立してございます。 それでは、議事の進行を佐藤会長、よろしくお願いいたします。</p> <p>改めまして、皆さんこんにちは。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。 皆さんに慎重な検討をしていただいて、少しずつ方向性がまとまりつつありますが、今日も皆さんに確認をして進めさせていただきたいと思っています。 それでは第4回のボランティア活動推進協議会を開催させていただきますが、まず報告事項として一つ、本日ご不在でいらっしゃいます、公募委員の鈴木比呂子様から、体調不良を理由として、辞退願の方が提出されています。 この件について、本日ご参加されておられません、板橋区ボランティア活動推進協議会運営要綱第4条3項により、協議会で鈴木比呂子委員の辞任について承認をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>(異議の声はなし)</p> <p>それではご異議もないようですので、鈴木比呂子委員さんの解任については事務局のほうで手続きのほうよろしくお願いいたします。 またここで委員が欠員になりましたので、補欠委員の補充ということもあるわけですが、この協議会も折り返しに入っておりますので、特に新規の募集は行わず、この18名の委員の中で、皆様との引き続き協議を行って進めさせていただきたいと思っておりますので、ご了承願いたいと思っておりますよろしくお願いいたします。</p> <p>それではまず初めに、本日、いろいろ資料を事前に送らせていただいていると思いますが、多くありますので手元の資料の確認について、事務局の方からお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料の確認をさせていただきます。 資料4-1、ボランティア活動推進協議会の今後のスケジュールと議題（予定）、 4-2、第4回ボランティア活動推進協議会検討の進め方。 4-3、第2回ボランティア活動推進協議会専門部会検討結果、 4-4、【参考】板橋区策定ビジョン等（一部）より将来像・基本理念等の一覧、 4-5、運営内容について、 4-6、第3回板橋区ボランティア活動推進協議会要点記録、 4-7、第2回板橋区ボランティア活動推進協議会専門部会要点記録、 以上でございます。 皆様、資料の不足等はございませんでしょうか。 それでは次第に沿って、議事運営を佐藤会長、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>2 今後のスケジュールについて 3 前回(第2回協議会)の振り返り・第3回協議会概要 それでは、2の今後のスケジュールについてと、3の前回第3回協議会の振り返りと、第4回協議会の概要について、あわせて、事務局のほうからまず説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料4-1、4-2、4-6について説明)</p>
<p>会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p>

	<p>まず今スケジュール資料4-1のところでスケジュール、事務局から説明あったように、時限的な部分でお尻がある程度決まっているというところで、タイトになっています。特に専門部会の皆さんには、ご尽力いただく部分が多々あるかと思いますが、ご理解のほどいただければと思います。</p> <p>あと事務局の方から今日の議事を進めているところの内容を含めて、振り返り等概要確認をしていただきましたが、今の説明のところにおいて、何かご質問等ございますでしょうか。</p>
委員	(質問等なし)
会長	<p>よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは専門部会の方で話をさせていただいておりますので、事務局の方から説明をいただいて、後程追加で必要なところで部会長の方に確認をしたいと思います。</p> <p>事務局よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>4 第2回専門部会の検討結果及び意見聴収 (資料4-3、4-4、4-7についての説明)</p>
会長	それでは、部会長の方から少し補足も含めて、ご説明あればお願いいたします。
部会長	<p>詳しく説明していただいたので省きますけれども、前回の協議会からも様々な視点や観点を、皆さんから意見を聴取しまして、そして、改めて私たちとしてやらなきゃいけないと気づかされたというのは、やはり今回はビジョンづくり、まず前提となっているのはビジョンづくりだということなので、普通の法律とか、規約を作るものでもないし、細かい文章の言葉を、別にここで確定しているわけじゃないので、むしろそういうビジョンだからこそ、どうやってわかりいい簡単な言葉で表現できるかなということ、専門部会でもいろんな意見を出していただきました。</p> <p>そしてどんな言葉をチョイスしたらいいかということで、大きく参考にさせてもらったのは、今ご説明があった資料の4-4にある、区で行っている様々なビジョンや構想とかっていうところで使われているキャッチフレーズ、それが非常にわかりやすくシンプルな言葉を使っているということもありますので、なるべくそういうようなことに近づけて、今回もビジョンづくりをしていきたいなという、そのビジョンの中で様々な現実の実際のボランティア活動や、参加しやすいボランティアというところに結びつけるように、気持ちとしてはそういうふうにながら心がかけたつもりでございます。</p> <p>本当に委員さんのたくさんのご意見とか検討が行われまして、こんな言葉に変更させてもらいましたので、ご理解をいただきたいなと思っています。</p>
会長	他の部会委員はいかがですか。
委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会でいろいろ協議させていただきまして、先ほど事務局よりご説明いただいた言葉を選んだという、丁寧に言葉選びをいたしました。 <p>資料4-4の中の文言をいろいろ考え、そして自分たちでその考えた中で、言葉を若い人たち子供たち、将来板橋を担ってくださるような方たちにわかるような言葉で、文言を作っていかななくてはということに一番神経を使って時間を割いた部分だと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い表現の中にいろんな思いを込めているという、やり方としてそういうものもありますよということと、今回のビジョンについても、そういう言葉選びの仕方がで

きたら、より効率的なものになるのではないかというようなお話をさせていただいた上で、皆さんに、「だれもが」言葉であれば、どんな人も含めていくことができるのか、「地域とともに歩む」ということについても、いろんな言い方があるので、その広がりがあっても、受けとめられるんじゃないかと、そのようなお話をさせていただきながら、ビジョンが決まりました。

・基本理念の方については、事務局の皆様からですね、区としてのこだわりというのを少しシェアしていただいて、その中の「自主性に基づいて」、やっぱり運営されていくっていうのが非常に大切なところで、これについては譲れないところなんです」ってお話改めてお聞きすることができましたので、その自主性っていうことだけは、きちんと基本理念の中で伝わるように前後の言葉をですね、精査していたというような流れがありまして、今の修正案についてはその事務局側の気持ちと、部会のメンバー、そしてその前にありました協議会全体の意見を全部反映されたものなのではないかなというふうに認識しております。

会長

ありがとうございます。

本当に部会の皆様、前回いろいろなご意見出たところを受けとめていただいて整理をしていただいたということが、今報告の中からも確認されました。

私一つ議長が自分で、事務局の言葉の説明であったので、その中に含まれていると思うんですが基本理念のところ「人と人とをつなげ」っていうことで、人とその社会資源をつなぐという前のところでは資源をつなぐみたいなのが入っていたと思うので、その辺がどんなもんかなっていうのはちょっと思ったんですが、その資源を活かす人が活かすわけですから、「人と人」という一番基本の基本に目を向けるっていうのを大事にするっていう意味では、先ほど事務局からの説明の中で、そこも含めているということが語られていましたので、多くの区民の方に知らせるときには、「人と人」っていうふうな響きがいいのかなというふうには理解はしています。

ただ一応気になったので、ちょっと申し上げておきます。

変えて欲しいとかっていうのではないですが、ただいろんなまたこういったものを説明するところには、それが多分運営方針で出てくるような内容に関わってくるのかなとは思いますが。

いかがでしょうか。

本当にこの前のご意見を反映して、いろいろなものも比較して調べていただきながら、書かれてきていますので。いかがですかね。

まずその将来像として、こちらで「だれもが地域とともに歩む未来を創るいたばし総合ボランティアセンター」そして「笑顔でバトンつなぐ“ボラセン”」というふうにボラセンという言葉も知っている人は知っているでしょうが、一般の方はあまり、何のことかわからないって方もいらっしゃるから、あえてこういう言葉、キャッチフレーズ的なボラセンという事を認識していただくっていうのも含めて、広く区民の様々な立場の区民の方たちに知ってもらう、そんな内容にもなっているかなと思いますが、この将来像の部分について、よろしいでしょうか。大きな枠組みというところでは、また何か確認をしながら、ご意見があったら聞かせてください。

あとは基本理念のところとして、理念としてどういうふうにしていくのかというところで、そういう繋がりっていうことを、キーワードの中でも出してきていましたし、もともと四つの協働で進められてきた。そういう意味では、基本としてネットワークというものを強化していくという部分と、「共創」ここもともに創るということで、さっき申し上げたような部分も含まれていますが、そうした人と人とをつなげる、特にコロナ禍の中でこうした人との関わりが少し断絶させられてしまっていた側面もありますウイズコロナで、これから新しい社会をつくっていくという、改めて社会をつくっていくというところでは、こういった人と人とをつなげるという基本に

	<p>立ち返っていくような、意味合いも大切なんだろうなというふうに私も思いました。</p> <p>そして皆さんのご発言の中にあるように、ボランティアっていうのは、基本その言葉の語源は、「ウォロ」という自発性を意味するような言葉から来ていますので、そういった自主性に基づくボランティア・市民活動ということで、一般的にボランティアは無償の活動というものが、従来一般的に言われていましたし、少しずつ有償の活動が入ってきたことによって、有償ボランティアっていう言葉もだんだんこう認識をされていて、その使用の仕方については、あえて有償ボランティアという名称は使わないで、有償サービスとか、言い方をきちっと整理する側面もありますが、こうしたボランティアのあり方、そしてNPO法人の法人格が取れるようになってきている市民活動として、積極的に行政とタイアップして協働していけるような取り組みも生まれてきていますし、そこまで至らなくとも、市民活動として、いろいろな取り組みが行われていますから、そうしたものを、板橋区としては、総合的に進めていく、支援をしていくという姿勢が、示していただいた基本理念には、伝えられているのではないかなというふうに私も、確認をさせていただいたときに思いました。</p> <p>こうした基本理念について、協議会の委員の皆様の方ではいかがでしょうか。</p> <p>何かご意見があったり、この辺はどうなのかというのがあったらお聞かせいただけるとありがたいですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>あとは事務局の方からもありましたし、部会の皆様方もありましたが、運営方針ですね、まず様々検討していく中身、ここをどう、実務に生かしていくかというところがありますが、ここではそういった先ほど部会長のお話もありましたが、大卒のビジョンを整理するところの段階というところでありますが、まずその運営をどうしていくかっていう方向性、どのような方向性で進めていくのかっていうところまでは、少しこの中で整理をするということ。</p> <p>「区民、地域団体、法人、板橋区で協働し、いたばし総合ボランティアセンターの設置運営を行う」というところ。これについて、あと役員会については、現存の役員会運営委員会が機能されていますので、そうしたものをどのように生かしていくか、この前の話し合いの中では、そこの中における様々な課題も確認されているところがありますので、実務を運営していくところでは、現状のところを少し整理しながら、リニューアルされたセンターとしていくっていうところで、基本的にこうした運営方針をとらえていくというところが必要です。</p> <p>これについては少し次の専門部会で、もう少しもめるところはもんでいただきたいと思しますので、そういったところにこの辺なんかは視点として置いて欲しいとか、そういったご意見もあればお聞かせをいただきたいと思します。</p> <p>こちらの運営方針についてはいかがでしょうか。</p> <p>とりあえずはまず「区民、地域団体、法人、板橋区で協働し、いたばし総合ボランティアセンターの設置運営を行う」という方針については、基本的にはお認めいただくという形でよろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは細々とした部分をどの程度整理するのか、もう少しご意見があればお聞きしておきますが、それをもし特にとということであれば専門部会の方に少しまだ十分検討しきれてないところを検討していただいて、次の協議会に出していただけるようにするということになるかと思しますが。</p> <p>いかがですか。</p>
委員	<p>この運営する資金源についてなんですけれども、これは板橋区から予算から出ているっていうことでよろしかったでしょうか。</p>
事務局	<p>環境整備は区のほうでやるというような形になっておりますので、運営する資金は区で出すことになっております。</p>

委員	そしたら法人さんとかには資金的なことは一切求めないってということでしょうか。
事務局	関連していくということもございますので、一切そういったものを受け付けないということではなく、皆さんで協力しながら、より豊かな生活というふうに先ほども申し出ておりますので、区民の生活がより豊かになるためには、様々な法人さんからの支援をいただきながら運営していくのが、やはりベストな形じゃないかなと思っております。
会長	<p>そこに制限をされるようなことがあってはいけない部分もありますから、だからこそ協働であると思いますので、そうした中で対等な協働関係の中で、でもやっぱりある程度の財源の保障がないとなかなか広く運営していくところが難しい側面では区としても、そうした区民のボランティア活動・市民活動を、促進していきたいというところで、あと様々な法人の方、あとはまたこの運営の体制をどうするかとか、あとは財源の部分も、今おっしゃっていたような寄付の部分とか、やっぱり今ファンドのことっていうのはもう、広く言われていますので、そうしたものをどう生かしていくか、この辺は具体的な運営方針の内容になっていくかと思えますけれど、ぜひ専門部会のところでも、そういった財源をどのようにしていくのかそういったことも含めてご検討いただければと思います。</p> <p>他はいかがででしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは、まずこうした部分について、この資料4-3、専門部会が丁寧にもんでいただき、パート3については、もう少しこれから整理をいただく部分は含まれますが、基本的にはここで示していただいた内容について、皆さんの方でご承認いただいたというふうにご理解させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>少し今ひとつ、運営の方針のところ、財源の部分についてのご意見もありましたので、その点は次の部会のところ、検討いただきたいと思います。</p> <p>それでは、次第の5、運営の内容について、事務局のほうから説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>5 運営内容についての検討 (資料4-5について説明)</p>
会長	<p>今資料4-5の運営内容についてというところで、まず一つ目の運営内容について、運営内容案としてア・イ・ウということで、これまでのものを踏襲しながら、整理された3つについて、</p> <p>ア板橋区における自主的・自発的なボランティア市民活動の推進施策を協議検討。</p> <p>イ、いたばし総合ボランティアセンターを拠点とし、ボランティア及び市民活動の支援。</p> <p>ウ、災害ボランティアのサポート。ということを示していただいています。</p> <p>まずこちらについて、ご意見やご質問等ありましたら、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。運営内容の基本については、皆様の方でもよろしいでしょうか。</p> <p>また後で確認しますので、もしご意見が何かこれがどうかというのが出たらおっしゃってください。</p> <p>あとはその運営方法についてというところで、少し新たな手法も含めてご説明をしてくださいました。</p> <p>特にプラットフォームというものの構築のあり方を、図2のところ示していただいていますので、こういったところを含めて、皆さんの方から何かご質問等まずありますでしょうか。</p>

委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォームは駄だと捉えており、何かをやるのではなくて主体者はあくまでもCBの利用者なので、各団体とその方たちの活動を生かすためにつなぐというようなイメージ。 ・学校としては本当にいろんな場面で欲しい人材、学習財としての人材っていうものは本当に探すのが大変で、繋がり、人づてでしか探せないのが、学校向けのボランティアとして「こういう窓口あります」というのが一覧になっていけば、おそらく各学校のニーズなんか絶対あると思う。 ・コミュニティスクールで委員さんの方からいろいろアイデアをいただいたりとか、つないでいただいたりとかそういうところも、少しずつできてきているところではある。
会長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>学校等の関わりがすごく大事にはなるんですけど、先生方に押し付けてしまうような形になるともう相当な状況の中でやられているのがあるので、だからこそプラットフォームでそこを協働していけるようにするかという、そこが多分大事だと思うしやっぱりここが未来というところを想定してるところでは、やっぱり子供たちとの関わりのところ、どう持っていくかということで、この辺のことが少し先生方がいらっしゃるんで、お聞きさせていただくとともに、プラットフォームっていう場がここで機能していくと、そこの中に乗ることによって、幅広くいろんな、さっきおっしゃっていただいたように、外国籍の子たちが多いわけですし、子供は言葉が理解できてきたりとか、そうしたところにNPOの方ができて、いろんなものの関係ができてまたそれと働くことへの繋がりができたり、いろんな要素、プラットフォームはやっぱりそこで横繋がりができるだけではなくて、そこから新たな繋がりが生まれたり、新たな取り組みが行われるようになってきたりする。</p> <p>そうしたインキュベーションってこういういろいろ生み出していくような機能を持っていますので、そこに至るかどうかっていうのはこれからですけど少しそういったことも含めてちょっとお聞かせいただきましてありがとうございます。他皆さんの方からはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>(意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の職場体験で、旅行会社さんから連絡が来て、NPOの職場体験を受け入れていただけますかということをご提案されたことがある。今プラットフォームが構築できれば、外部委託しないで、旅行会社等が探さないでコミュニティスクールの中で探す、そしてボラセンのプラットフォームの組織がきちっとシステム化して構築されていると、それが利用できるんじゃないかなと思う。 <p>(質問)</p> <p>プラットフォームの中のこの丸の区民と書いてあるんですが、この区民に対してはどのような形で情報発信するのか。</p>
事務局	<p>周知を図っているところです。</p> <p>今後つくるプラットフォームについてもまだもやっとしたものしかないんですけども、会議体が一つの方法としてはあると思うんですね様々な団体や区民の方々の代表が入るような会議体で、そのプラットフォームのことを担うというのは一つのものがありますし、それだけでなく、これ会議体によらない関係づくりということで、今本当に皆さんスマホであったりとか、SNSで、広く情報が繋がる世の中になっておりますので、そういった会議体によらないシステムを導入していこうということで、誰もが気軽にそこのシステムを通じての入り方というものを少し想像しているところなんです。</p>

委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <p>最終的にボランティアのこういった組織を究極化させるときは、災害のときの情報網をどうするかっていうことでも一方ではあるため、当然、ホームページやSNSの活用というのは重要なんですが。SNSに親和性のない年配の方は掲示板をよく見ていると感じるため、ボラセンという言葉はとっつきにくいので、大きくボラセンと書いて掲示板を利用していいのではないかな。何か重要なことがあればツイッターやホームページで検索すればわかるが、その検索ワードがわからないっていうのが、認知度の問題になっているように感じる。</p> <p>・町会では、掲示板と回覧版を主に連絡事項としてやっている。私自身もこの町会活動を長い間やっているが、ボランティアセンターの存在が全くわからない。町会には毎月町会長会議があり、区の行政の連絡事項とか、それからその支部のいろいろなものを連絡しているが、もう少し広めていきたい。</p>
会長	<p>町内会でもそこは本当に町内会の皆様のご理解がないと、掲示板の活用だとか、回覧版に載せていただくっていうのも難しいですからそういうご協力と、あとは今事務局が言っているような、そういった情報システムの中で、そういったページを作るなりして、若い子は逆にそういう方がアクセスしやすかったり、あと障害のある人なんかは、そっちの方がアクセスしやすかったり、いろいろそういう意味ではダイバーシティで考えていくと、多様な立場の人たちが乗り入れできるような環境をつくっていくという、特にこのプラットフォームって言葉は逆に情報システムの方から出てきた言葉でもありますので、そうしたものをやっぱり両方、先生言ってくださったように、両輪でやっていくってことが大事かもしれないですね。ありがとうございます。</p> <p>でもここまでの段階でだんだん少しずつこういう具体的な内容が出てきて今のご意見なんかを含めながら、それを整理してスタートしていければ、板橋区のこれからの取り組みはすごく魅力的なものになるんじゃないかなと思います。</p> <p>他皆さんの方からご意見、はい、どうぞ。</p>
委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <p>・被災された方から上がるのは、ボランティアセンターが立ち上がったとき、名前は知っているけども「何をしているかわからない」とか、「何か困っていることあってもそれを相談していいのかわからない」ということがよくある。ボランティアって響きがなじみないというか、自分が置かれている状況でちょっと相談できるみたいな印象を持ってないところがある。なので、広く知ってもらおうという上で、もちろん名称について広めていくのは大事だが、そのボランティアセンターっていうところが「何ができる」とか「どんなことを解決しているところなのか」という、機能とかそういうところを広く知ってもらおうことが合わせて広がっていくといいと思う。</p> <p>・地域センターとかあるので、そういうところに何か働きかけてやってみたらどうかなって思う。また、場所に対する課題というのも、上板だけではなく、いろいろな場所にそういう場所をこれからつくっていったら、そうすると、周知度も上がってくると思うので、そういう活動も必要だと思う。</p> <p>・講座や養成講座をするのがボランティアセンターの役目で、いろんな会を作っている方々が自主的に運営しているものが多くって、その講座を受けた人たちにどうやってつなげていこうかっていうのは、うまくできていないような気がする。やろうと思う気を持っている人の意欲がそがれてしまうんじゃないかと思うので、そういうことをなくすためにも、プラットフォームが拡張できたらいい。そのためにはマネジメントする方コーディネーターの方が必要。</p>
会長	<p>本当に今の部分では多分その講座のための講座やっている人は機能しなくなっちゃう</p>

ので、今言われているのが、課題解決型の取り組みというようなやっぱりその地域ニーズである課題に対して、子ども食堂とか世の中、もう全国的にすぐ動いたのはやっぱりもうそこに困っている子たちがいて、学習支援なんかで支え始めた人が食事も困っている。

そうするとそっちもやらなきゃ生活でもいろいろってということで、専門職とタイアップしながらいろんなことが今も全国にあつという間に一致、僕の認識では、全国のところで一斉に始まったってというような認識がありますが、そうしたように、やっぱりこのニーズがあるところに人が、動いていくっていうのがあるので、やっぱりこれからやっていくときには、少し講座のための講座ではなくて、今ここの板橋区にある地域ニーズに皆さん集まってもらってそこを解決していくってというような、実践的なものを生かしていくということは多分ちょっと切り換えとしては必要ではないかなと思いますし。

あとこの3ページで示されたようなところは、皆さんがご指摘の通り、そのアナログ的なもの等そのデジタル的なものを生かしながら、今ご指摘いただいたように、多分ここの担い手となる、それは総合ボランティアセンターのマネジメントしていくようなコーディネーターの役割も求められますし、あとはCBで中間支援組織があるとそこにもマネジメントする人がいますし、学校なんかの部分でも、そういったものを担当する先生がいらしたり、でもその先生はその学校のところの部分ですから、あとは社協側のほうで福祉教育とかボランティア学習というところで調整するコーディネーターがいたりとか、あとは、学校のコミュニティスクールになっていけば、学校の縁だとか、その地域のボランティアの取りまとめのようなところを、社会教育の方がやってくれたり、いろいろ私も関係しますから、それぞれのところに、やっぱりネットワークってものがありますから、そこがちゃんと乗っかり合って対等なところで、調整をしながら、やれるようにしていく土壌を作っていくことが多分大事になると思うんですね。だから元のところはちょっと大変かと思いますけれど。

あとは、役員体制とか、運営委員会の体制をどう機能的にするのか、多分役員会はここにお集まりのような、いろいろなご責任を持たれているような方がなっただくことで、区民の方たちの信用が得られると思うし、あと運営委員会みたいな方は柔軟にいろんなことやっていきたいって人たちが進められるような柔軟な機能にしていってというのもさっきおっしゃっていたようにセンターにはそういう運営に誰でもエントリーできるってような門戸を開いていくような形で、ただいろんな形がありますから、さっき事務局も言った、それが社会的に望ましくないようなことがあればそれは、きちんと確認していかなければいけない面もあるでしょうから、そういったフィルターは何らかの形で設けながら、全部柔軟に区民の、参加ができるような形にしていく、多分そこがこれから少し具体化していくところでは、皆さんのご意見とかも聞きながら、ちょっと専門部会でもんでいただくってところになると思います。

本当にやっぱり皆さんやられている方たちなので、示唆に富んだところがこう出てきていると思いますので、ちょっと部会での確認がまた少し課題になってしまいますけれど、すいません側面支援は私もここと同じようにしたいと思いますので、ぜひ、よろしく願いいたします。

他はいかがでしょうか。大分いろいろ皆さんにお話をいただいて。

会長代理

基本的にその人材不足の一方で、そのリタイアするけれども社会に全然貢献できる健康な方たちってのがいっぱいいて、実はこの人たちが今もう社会を支えているんだと思うんです。

私、板橋に来る前は仕事で島根県に3年いて、高齢化率はここでもずっとずっと上です。なので、若い人材っていうのも、島根県は考えるのを捨てていて、なんで大人同士リタイアしたけれども、全然地域に働ける方達を核として、地域をつくっていきま

	<p>しょうっていうふうな動きをしていて、その結果ですね、石見部というふうに言うんですが島根県西部に関して言うと、人口が若手の人口が増えました。ですので、若い人若い人って言わないで、リタイアしたけどまだ地域に全然貢献できるっていう人たちを中心にやってきたらいいと思うんです。</p> <p>ただこの両者はですね、取っている情報がそれぞれ異なっていて、年配の方は、新聞中心それから回覧版中心で、若手はSNS中心で新聞とか回覧版とか掲示板見ないんですよ。</p> <p>この両者を結ぶために、同一情報をボラセンと称して、両者に投げて共有を図るっていうことを設計の中で取り組むといいのではないかなと思って、ちょっと発言させていただいたということになります。</p> <p>それをしたら何でいいのかっていうと、板橋区には、板橋区民じゃない、板橋区に住んでいる板橋区内の6大学に住んでいる学生さんたちっていうのは結構多くいるんです。この人たちは本当に回覧版も見ませんし、町内会にも入っていませんし、大学との繋がりの中で生きていような人たちですが、この人たちはボランティアをする意欲のある若者たちです。</p> <p>この人たちに何とかこの情報が届くようなプラットフォーム設計をしないと若手がとにかく集まらないので、その若手を集めたときにその人たちにボランティアを教えるためには、やはり社会経験のあるリタイアしたけどまだ社会のために全然貢献できる人たちをまず引き込むっていうところからは制度設計なのかなと思います。以上です。</p>
会長	<p>あと、今おっしゃっていただいたように、大学っていうのも社会資源です。私は明日神奈川がもうそこに着目してくれているので、明日1日研修があるんですけど、だから大学っていう社会資源をどう生かすかっていうのはすごく大きいですよ。あとそのシニアの方たちっていうものもあると思います。</p> <p>そういう意味では、板橋区では健康長寿医療センターの先生と一緒に共同研究したことがあるんですが、今まさにおっしゃったような取り組みを、世田谷なんかで実践されたり、いきいきシニアの活躍の場をつくっていく。そういう意味では、区はそういう財産も持っていますから、そうしたところへの協力なんかしてもらおうのも一つかなというふうに、すごく知見が豊富でいらっしゃるので、そういったものはすごく生かせるんじゃないかなと。</p>
委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <p>板橋は四大とかがたくさんあり。専門学校もいっぱいできている。</p> <p>その学校の連携で学生さん集められるような、何か組織をつくっていただけないかと思う。区内、あと近隣の大学もしっかりとボランティアセンターがあると思うのでそこへ呼びかけて、その組織を何か作ってシステム構築していただければいい。</p>
会長	<p>ありがとうございます。もう具体的に東京都のボランティアセンターということで、ネットワークが組織化されているので、ただあまり多くの方たちが加盟されていませんから。ただ都のそうした部分でのご相談としては、都のボランティアセンターのところで、そういったネットワークがありますので今おっしゃっていただいたような、立教や青山学院とか、いろいろなところも参加していますので、うちもちょっと関わっておりますけれども、そういう意味では、そういったところ、あるものを生かしながらそこから裾野を広げていくので、ないものをつくっていくってすごく大変なので、あるものからこう進めていくっていうふうにするほうが僕は現実だと思います</p>
委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <p>・たくさんその情報ネットワークの強化、プラットフォームをちゃんと認識させて、</p>

	<p>或いは周知させて、或いは告知していくとか、それからそこをプラットフォームの中で組み入れていくっていうようなことはやっぱりできそうだと思うている。</p> <p>・今のボランティア、新しいボランティアセンターが、その地域センターと共有しながら、地域センターを通して地域の学校や地域の町会の人たちとのつながりをさらに深めていく事ができればある程度ネットワーク性が広まっていくのではないかとという気がしている。情報を交換できる場としての地域センターや、そのニーズを聞いてくる地域センターっていうことに少しシフトしていけば、現在のボラセンの人材のサポートにもなるのではないかと、現実的にはそんなイメージを抱いている。</p>
会長	<p>6 第3回専門部会への下命</p> <p>もう一度今のご発言を少し事務局等も含めて整理をしていただいで、ちょっと確認ですが、運営内容については、運営内容として運営方法、そしてその他というところで、今本当にいろんなご意見をいただきました。</p>
委員	<p>そのセンターのあり方っていうところに必要なものということで、要素の部分も含めてくださいましたし、またその地域センターを活用した、やっぱりランチ機能があってより広くし理解を進めることができるのではないかと。そうしたものを念頭に置いていただいで、この運営内容を進めていく、そしてまたこの内容について整理をしていただいで、専門部会の方で次回のところで示していただくというところでの確認をしてよろしいでしょうか。</p>
会長	<p>(異議はなし)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それではだんだん時間も迫って参りましたので、次第6のところ、専門部会の下命ということで、今ちょっとそこにつなぐところで、部会長によるしく願いますみたいなこと言ってしまいましたが、下命事項としましては今確認した通り、運営方法についての確認をするということが大きい要素だと思います、特にそのプラットフォームを導入していくというところで具体的な方法の検討をしていただくということが必要になると思います。</p> <p>あとその他の方法の検討としては今出てきたようなそのランチのことを含めて、あとはそこの方の運営体制ですね、そういったことについても少し見通しができればと思います。</p> <p>こうした下命につきましては検討事項が相当多くなってしまうので、先ほど事務局がスケジュール案で出してくれたように、2回に分けて、専門部会の方でも取り組んでいただくということが必要になると思いますので、そういった形でお願いするということで、皆さんの方ご了解いただいでよろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは最後、全体を通しての意見聴取というところでどうですか。</p> <p>結構多くの方ご発言いただきましたので、ご発言がまだの委員さん、全体通してみても感想でも構いませんのでよろしくお願いします。</p>
委員	<p>7 全体を通しての意見聴取</p> <p>(委員意見抜粋)</p> <p>・ボラセンに連絡をとってつなげていただいたが、ちょっとタイミングが合わずにそのままになっているっていう声もちょっと聞いたので、こういうプラットフォームの形があると本当に個人のボランティアを活動したいという方々の裾野が、本当に広がっていくと思う。</p> <p>・板橋区スポーツ推進委員なんです、やはりこの中の方でも知らないっていう方が多</p>

	<p>分いっちゃうと思う。私たちもその中で認知度をどう上げていくかっていうのを、話し合いを何年かして、その結果、ロゴマークっていうのを作った。ロゴマークを募集して、ロゴマークが無事にでき上がった。それが私たちの今自分の糧となっているっていう状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要なのはやっぱりボラセンの事業にして生み出したのが、ボラセンの事業になってしまうと今度生み出す余裕がなくなってしまう。例に出ているように、協働に参画した参加した団体がどうと一緒に形づくるのかが、ポイントになると思う。 ・将来像とか未来があって、基本構想があると思うが、何年後を見据えるかっていうのは、具体的に議論していくことが必要だと思うのでそこを示してもらいたい。
会長	<p>SDGsと重ねると2030年の目標があるからそこが一つだけ、そこは区としてはどうですか。</p>
委員（区）	<p>基本理念・将来像とほぼ固まっている状態になりまして、本当に前回の専門部会で皆さん熱い議論をしていただいた中での結果でございますので本当にありがたいなというふうに思います。</p> <p>このビジョンについては、一応来年度5年度の末に策定をして、6年度から開始をして、2030年のSDGsのゴールとされている、令和12年度までの7年間を一応計画期間として、このビジョンをもとにして、次のボラセンを作っていくというようなイメージであります。</p> <p>そのため、今日ご意見をいただいたプラットフォームの関係についてもですね、そういったいろいろな意見を吟味しながらどういうふうにボラセンを作っていくのかということに向けて、区としても、環境整備をしていくという形になろうかなというふうに思っているところでございます。</p> <p>議論の中では、デジタルも大事だけれどもアナログの大事さということで、すごく掲示板も大事だというようなところは、今しっかりと心に刻みましたので、この後の部会の方でもですね、そういった意見を十分に斟酌しながら、またこの協議会に戻って来られるように、サポートをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。</p>
会長	<p>どうぞよろしくお願いいたします。他この部分のところ、十分伝えきれてないことお気づきの点とかありましたら、あとで事務局の方に期日を決めて、連絡を受けてもらえればと思います。</p>
委員	<p>（委員意見抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の専門部会の中では、プラットフォームにする場合には、一斉に情報発信をするっていう頻度を増やしていくようなことも考えていかなきゃいけないと思う。
会長	<p>ではそういった形でもし何か少し、伝えたいことがあればちょっと事務局の方から期日を決めてもらって、反映させてもらって次回につなげてもらいたいと思います。</p> <p>議事の方はすべて整え終わりましたので、事務局の方からお願いします。</p>
事務局	<p>8 閉会</p> <p>ありがとうございました。では最後に事務局のほうから事務連絡をさせていただきます。</p> <p>第5回ボランティア活動推進協議会ですが、5月の中旬頃の開催を予定しております。詳細につきましては決まり次第、ご連絡させていただきます。その後、開催通知や事前配布資料などについては、改めてご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。</p>

<p>会長</p>	<p>また、第3回の専門部会の方でございますが、こちらは3月9日木曜日10時から、いたばし総合ボランティアセンターにて開催いたしますのでご参加いただきますようお願いいたします。</p> <p>協議会委員の皆様の中で、傍聴をご希望の方がいらっしゃいましたら事務局までお問い合わせください。</p> <p>また本日いたばしボランティア・市民活動の情報紙をお配りしておりますので、ご覧ください。</p> <p>またあわせて今年度の掲示板の予定なんですけれども、6月に夏ボラ募集、また11月に結まつり、1月に見本市ということで、ボランティアセンターのポスターを掲示する予定になっておりますので、あわせて周知させていただきます。</p> <p>今のボラセンでロゴのようなものはあるんですかね。どこもそういうのを作って、割とそこから広めるなんて確かにやっていますから、そんなことも含めながら、ぜひ専門部会の皆さんいろいろとご検討いただく部分が多いと思いますけどよろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、第4回の協議会を終了させていただきます。</p> <p>皆さんありがとうございました。</p>
<p>所管課</p>	<p>区民文化部地域振興課 地域振興係 (電話 3579—2163)</p>